

医事法と生命倫理の資料館「明治大学ELM」 開館記念講演会・シンポジウムを開催

医事法と生命倫理に関する資料を専門に扱う資料館「明治大学ELM(エルム)」<※以下、ELM>が4月に駿河台キャンパスに開館したのを記念し、同キャンパス・グローバルフロントで6月27日、「記念講演会・記念シンポジウム」が開催され、医療・大学関係者ら合わせて約150人が来場した。

開会のあいさつに立ったELM館長の宮宮勇法学部長は、開館に至る経緯を説明の上、「ようやく開館することができ、非常に感慨深く思っている。ELM創始者である唄(孝一)先生から資料や文献の寄贈の申し出があってから約15年が経ち、非常に長い時間ではあったが、あつという間のよ

うにも感じられる」と万感の思いを語り、ELMの今後の発展への協力を呼びかけた。

続いて行われた記念講演会「一法・医・倫理の過去現在未来」では、日本医事法学会代表理事などを務めている甲斐克則氏と、『幸せなら手をたたこう』の作者としても知られている木村利人早稲田大学名誉教授の講演が行われ、それぞれの視点からELMの重要性が述べられるとともに、今後への期待が語られた。

その後、館内の見学会や、有識者を招いての記念シンポジウム「一医薬品の法と倫理」が続き、約5時間にわたる本会は盛況のうちに終了した。



「明治大学ELM」の重要性を述べる甲斐氏

農・玉置教授が「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞

山本副学長より玉置教授(左)へ表彰状が手渡された



農学部の玉置雅彦教授がこのほど、2015年度「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞し、生田キャンパスで7月6日、表彰状授与式が行われた。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、日本学術振興会が各大学や研究機関で小学5年生～高校生を対象に実施しているプログラム。科研費による最先端の研究成果を通じて、科学の面白さを若い世代に感じてもらうことを目的に行われている。

玉置教授は、目に見えない微細気泡「マイクロバブル」の殺菌効果をテーマとするプログラム

を、高校生を対象に2010年度より毎年実施。継続的かつ熱心に同事業に取り組み、子供たちの“科学する心”の育成と知的好奇心の向上に大きく貢献したとして、今回の受賞に至った。

山本昌弘副学長(研究担当)から表彰状を受け取った玉置教授は「農学部では農作物の栽培だけでなく、関連するいろいろな研究が行われている。このプログラムを通じて、高校生たちに研究内容や明治大学に興味を持ってもらえるのがうれしく、励みにもなる」と述べ、さらに「若い人たちには、われわれができなかったことを発展させていってほしい」と次世代への期待も語った。

仙台第一高校の生徒が「植物工場」を見学

宮城県仙台第一高等学校の生徒3人が7月9日、生田キャンパスに来訪。「植物工場基盤技術研究センター」やキャンパス内の施設を見学し、同センター長の池田敬農学部准教授から講義を受けた。文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている同校では、その活動の一環として「校外研修」を行っており、生徒が研究の現場に直に触れること

で、各自の興味・関心のあるテーマについて知識を深めている。

高校生たちはまずセンター内を見学し、実際に栽培されている野菜の試食を行った。その後、池田准教授が「農業に対するイメージを変えていこう」をテーマに講義を行い、植物工場の導入理由や植物工場の利点、問題点などについて高校生向けに事例を交えながら解説。池田准教授

は、農商工が連携し食料を安定的に供給することや、農業を産業化させることの必要性についても言及した。

講義を受けた高校生たちからは「植物工場で光の色を変えるには?」「レタスを育てるのに適した光の色は?」「植物工場で育てやすい野菜は?」と次々に質問が挙がるなど、植物工場への関心の高さがうかがえた。



野菜を試食する仙台一高の生徒たち

教育開発・支援センター 新任教員向け研修会を開催 大学入試や就職支援状況を説明、第2部は人権講演会

今年度新たに採用された教員を対象とした「新任教員研修会」が7月18日、駿河台キャンパス・リバティタワーで開催さ

れた。この研修会は、当該年度に任用された専任教員と特任教員を対象に教育開発・支援センター

が毎年開催しているもので、本学の沿革や教育理念、教育の心構えなどについての理解を促し、教員自身の自己啓発意識を高めることが目的。今年度第2回目の研修会となった。

研修の冒頭、あいさつに立った福宮賢一学長は、高校生を対象としたリクルート進学総研の「進学ブランド力調査2015」に触れ、「本学は7年連続で関東エリアの高校生の『志願したい大学』1位になった。これは、本学が地道な努力を積み重ねてきた結果。また現在、国際通用性や教育力をより高める『総合

的教育改革』を進めており、皆さんの協力をお願いしたい」と呼びかけた。

続いて、教育開発・支援センター長で副学長(教務担当)の竹本田持農学部教授が本学の入試の種類、卒業生の進路等の概略について説明。その後、山田朗文学部教授(副教務部長)が「明治大学の入試概要」、鳥居高商学部教授(同)が「広報・オープンキャンパス、志願・入学する学生の特徴等」、矢ヶ崎淳子法学部教授(同)が「明治大学の就職キャリア教育」につ

いて詳細に説明した。休憩を挟み午後からは、人権教育・啓発専門委員会との共催で「人権講演会」が開かれ、臨床心理士でもある伊藤直樹文学部教授が「心の病を抱えた学生の理解と対応」をテーマに講演。続いて、ハラスメント対策コンサルタントの樋口ユミ氏を招いてのキャンパス・ハラスメント講座があり、新任教員らはワークシートを使いながらケース・スタディや自己診断などを行い、キャンパス内で起こりうるハラスメントへの理解を深めた。



メモを取りながら熱心に話を聞く新任教員